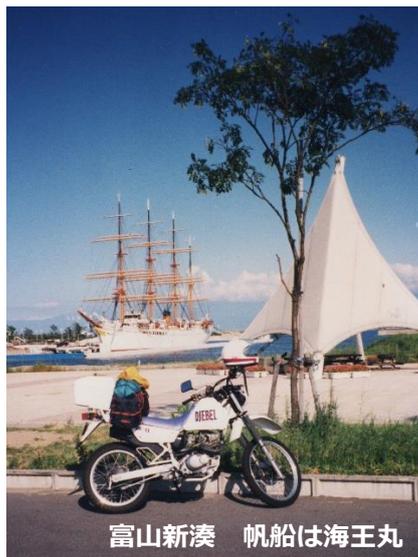




前回の「通潤橋」で、熊本県山都町に九州を東西へ分ける分水嶺があることに触れました。今回は本州の中央分水嶺と幾つかの日本の真ん中をテーマにしてみます。青森県から山口県まで、日本海と太平洋・瀬戸内海に雨を分ける中央分水嶺が続いています。山の頂だったり峠だったり、低い谷の中にある谷中中央分水界といわれる部分もあります。上の写真はその中央分水嶺のなか所々で岐阜県ひるがの高原「分水嶺公園」です。標高 875m 程のところ湿原のような平坦地が広がり、その中で小川が左右に分かれ、一方は長良川で伊勢湾・太平洋に、他方は庄川で富山湾・日本海に流れ出します。この写真は 2015 年秋に撮ったものですが、その 20 年前夏にもバイクで能登半島ソロツーリングの帰路、ここに立ち寄りしました。富山湾の富山新湊から庄川沿いを上って、砺波散居村、合掌造り集落（相倉・菅沼・五箇山）、御母衣ダムを経て約 130km でひるがの高原、そこから長良川沿いに下り、郡上八幡、美並、岐阜、墨俣一夜城、国営木曽三川公園、伊勢大橋、長良川河口堰、ナガシマスパーランド・伊勢湾まで約 140km というコースで、本州を横断しました。



富山新湊 帆船は海王丸



合掌造り集落 相倉



御母衣ダム（ロックフィルダム）

バイクツーリング中の写真はフィルムカメラの時代。アルバムのプリントからスキャンしたものです。



合掌造り集落は世界遺産登録 3 か月程前で、まだ修学旅行の高校生宿泊も可能でした。前年に重要伝統的建造物群保存地区に指定されたばかりの相倉に泊まりました。御母衣ダムは、日本初の規模ロックフィルダムで 1957 年着工・1961 年竣工、堤高さ 131m・堤頂長さ 405m・堤体積 7,950,000 m<sup>3</sup>とのことです。美並村（現在は郡上市美並町）には、当時日本の人口重心（5 年毎の国勢調査結果で算定）があり、道の駅にモニュメントもありました。現在は南東に 7km 程の関市内に移動しているようです。道の駅には今でも（日本真ん中苑）と表示されていますが、モニュメントは無くなっています。直前に行った能登半島の先端・禄剛崎には「日本列島ここが中心」（日本海上の地図的重心に最寄りの陸地）の碑がありました。地図重心と人口重心が 200km 以上離れて、その間に中央分水嶺があることとなります。墨俣一夜城は史実とは違うだろうと思われる「天守」（大垣城を模したのものと説も）が建てられていました。国営木曽三川公園からは、左に長良川・右に揖斐川という堤の上を 8km 程走ると、R1 号線の伊勢大橋の中間部に T 字路で合流しました。そのすぐ下流に長良川河口堰があります。「開発」か「環境」かの論争を経て 1968 年着工・1994 年竣工、堤頂長さ 661m、本格運用開始された翌月の訪問でした。長良川と揖斐川の合流が伊勢湾に流れ出す河口にナガシマスパーランドがあり、前年完成の木製ジェットコースター「ホワイトサイクロン」（米松 4,800 m<sup>3</sup>使用）を望むことができました。大分県城島高原パークの「ジュピター」（日本初 1992 年）に続く木製コースターで、「木製ならではのきしみや振動」が評判になっていました。この「ホワイトサイクロン」は、2019 年に木製と鉄骨のハイブリットコースター「白鯨」にリニューアルされています。

本州中央分水嶺は、東北の奥羽山脈から、関東北西部の山地では、尾瀬の至仏山、清水峠、三国峠、渋峠、四阿山、碓氷峠、十石峠、三国山、甲武信ヶ岳と続き、さらに信州峠、野辺山 JR 最高点、麦草峠、蓼科山、大門峠、和田峠、善知鳥峠、権兵衛峠、鳥居峠、鉢盛山、野麦峠、乗鞍岳剣ヶ峰、ひるがの高原、石生の水分れ、中国地方に入って人形峠（日本初ウラン鉱床発見地、アトムサイエンス館あり）、向井原の泣き別れ、河川争奪による上根付近の谷中分水界、深谷川の河川争奪地と続きます。河川争奪地とは、川の浸食が激しいところが他の水系の一部（上流部）を取り込んでしまい、その近くに取り込まれた川の下流部との間に分水嶺が移動したものです。次のところで分水嶺地図を見られます。

**分水嶺倶楽部** [http://www.jac.or.jp/info/doukoukai/chiri/bunsuirei/bunsui\\_teigi.html](http://www.jac.or.jp/info/doukoukai/chiri/bunsuirei/bunsui_teigi.html)

この中央分水嶺で標高最高点は、北アルプス南端部の乗鞍岳剣ヶ峰山頂（標高 3025.7 m）です。南は木曽川水系で伊勢湾へ、東は信濃川水系で新潟へ、西は神通川水系で富山湾へ流れます。標高約 2700m の乗鞍畳平（日本で車が登れる最高点）には何回か行ったことがありますが、剣ヶ峰山頂までは登ったことがありません。中部地方にはもっと高い山が幾つもありますが、中央分水嶺にはなっていません。富士山は、周囲が富士川水系、相模川水系、酒匂川水系、狩野川水系と全て太平洋側に流れます。南アルプスや中央アルプスの山々の周囲も太平洋側に流れます。

中央分水嶺で標高最低点は、兵庫県丹波市氷上町石生を東西に走る谷中分水界（約 1.25 km）、石生の水分れと言われて

います。水分れ公園や水分れモニュメントもあります。R175号線旧道水分れ街道付近で標高約95mです。北側は由良川水系で若狭湾・日本海に、南側は加古川水系で瀬戸内海に流れます（どちらも約70km）。日本海側と瀬戸内海側を繋ぐ人の交流や物流の要衝で「氷上回廊」ともいわれていたそうです。なおこのR175号線を加古川に沿って少し下った西脇市には、「日本のヘソ公園」（東経135°、北緯35° 日本の経度・緯度の中心）があります。R175号線の南端は、日本標準時の明石天文科学館の近くでR2号線と合流しています。国土地理院の地図で見ると、下関市長府新四王司町辺りにもっと低い標高70数mの中央分水嶺があるようですが、宅地造成で標高が下がったものかも知れません。北海道には、新千歳空港付近に南北に分ける標高20m程度の分水界があるそうです。北は石狩湾へ、南は太平洋に流れます。



山の頂や尾根線、峠、川等自然の地形が、市境や県境、国境になっている場合もあります。平地での川の流れ等地形の変化での係争例は歴史的にも数限りなくありますが、高い山の上でも起こり得ます。スイスの国境は3分の2が自然の地形で定められていて、テスタ・グリジア山頂（標高3480m）付近のイタリアとの国境は分水嶺と定められていたようで、それが最近の温暖化による氷河後退で水の流れが変わって、分水嶺がイタリア側に移動しているとのこと。山頂の山小屋も1984年に建てられた当時は全ての建物がイタリア領だったが、次第にスイス領へなりつつある(?) そうです。どちらかの国の体制とリーダーに問題があれば、このようなことでも武力紛争に発展しかねません。毎年8月15日に発せられる「不戦の誓い」。先制使用する意思がなくても抑止力の為に保持せざるを得ない軍備、ますますその必要性が増すような理不尽な世界情勢もあります。そろそろこれらをすっきり解決してくれる賢者が現れないでしょうか。

(写真撮影 1995.08.29-30, 2004.06.19, 2015.10.23, 2018.02.07)

< Google マップ参照 >

URLは、下の「PDFはこちら」に入り、アンダーラインをクリックしてください。

- ひるがの高原分水嶺公園 <https://www.google.com/maps/@35.9980161,136.8975839,16.42z>
- 御母衣ダム <https://www.google.com/maps/@36.1454009,136.9067298,13.35z>
- 道の駅美並（日本真ん中苑） <https://www.google.com/maps/@35.6087521,136.9422531,17.83z>
- 能登祿剛崎（日本列島地図重心） <https://www.google.com/maps/@37.5259797,137.3228797,15.06z>
- 墨俣一夜城 <https://www.google.com/maps/@35.3684588,136.686458,15.85z>
- 長良川河口堰 <https://www.google.com/maps/@35.0812632,136.6956802,16.15z>
- 乗鞍岳剣ヶ峰（中央分水嶺最高点） <https://www.google.com/maps/@36.1087467,137.5530071,15.46z>
- 石生の水分れ分水界（同最低点） <https://www.google.com/maps/@35.1512665,135.0723359,17.08z>
- 日本のヘソ公園（経度・緯度中心） <https://www.google.com/maps/@35.0007808,134.9973764,16.67z>
- 下関市長府新四王司町辺り <https://www.google.com/maps/@34.0181973,130.9841361,16.19z>
- テスタ・グリジア山 <https://www.google.com/maps/@45.9354204,7.7073392,15.56z>